

日本特別ニーズ教育学会第31回研究大会(兵庫大会)第三次案内

第31回研究大会の第三次案内をお送りいたします。これまでご案内をさせていただきましたように、2025年10月18日～19日(17日は前日プログラム)に、日本特別ニーズ教育学会第31回研究大会を兵庫教育大学と芦屋大学との共催により芦屋大学六麓荘キャンパスで開催いたします。

会場は神戸三宮や大阪梅田に近く、JR 芦屋駅、阪急芦屋川駅、阪神芦屋駅の3つの駅からバスやタクシーでのアクセスが可能です。開催地である芦屋大学は、関西を代表する閑静な住宅地である「六麓荘」にそのキャンパスを構えています。大学からは美しい芦屋の街並みと大阪湾を広く見渡すことができ、夕方には美しい夜景もお楽しみいただくことができます。

第31回研究大会では5カ所の見学ツアー(前日プログラム)、課題研究・準備委員会シンポジウム、自由研究発表・若手チャレンジ研究会・ラウンドテーブル48件というように内容豊かな構成になっております。懇親会も準備しております。多くの皆様のご参加を大会準備委員会・スタッフ一同お待ちしております。

日本特別ニーズ教育学会第31回研究大会準備委員会
委員長 石橋由紀子(兵庫教育大学大学院学校教育研究科)

大会日程等

(1) 開催日：2025年10月18日(土)～19日(日) *10月17日(金)に前日プログラムを実施

(2) 開催地：芦屋大学六麓荘キャンパス 芦屋大学本館(5号館2階)

*自家用車でのご来場はご遠慮ください。

*会場は神戸三宮や大阪梅田に近く、JR 芦屋駅、阪急芦屋川駅、阪神芦屋駅の3つの駅からバスやタクシーでのアクセスが可能です(タクシーで15分～20分程度)。

【路線バス】

*阪急バス「日出橋(ひのでばし)」で下車、徒歩5分。

JR 芦屋駅1乗り場 岩ヶ平、苦楽園(循環)、阪急夙川、岩園町(岩園団地)方面 ⑪⑬⑮⑰⑳

阪急芦屋川駅3乗り場 阪急夙川、苦楽園(循環)、岩園町(岩園循環)方面 ⑬⑮⑳

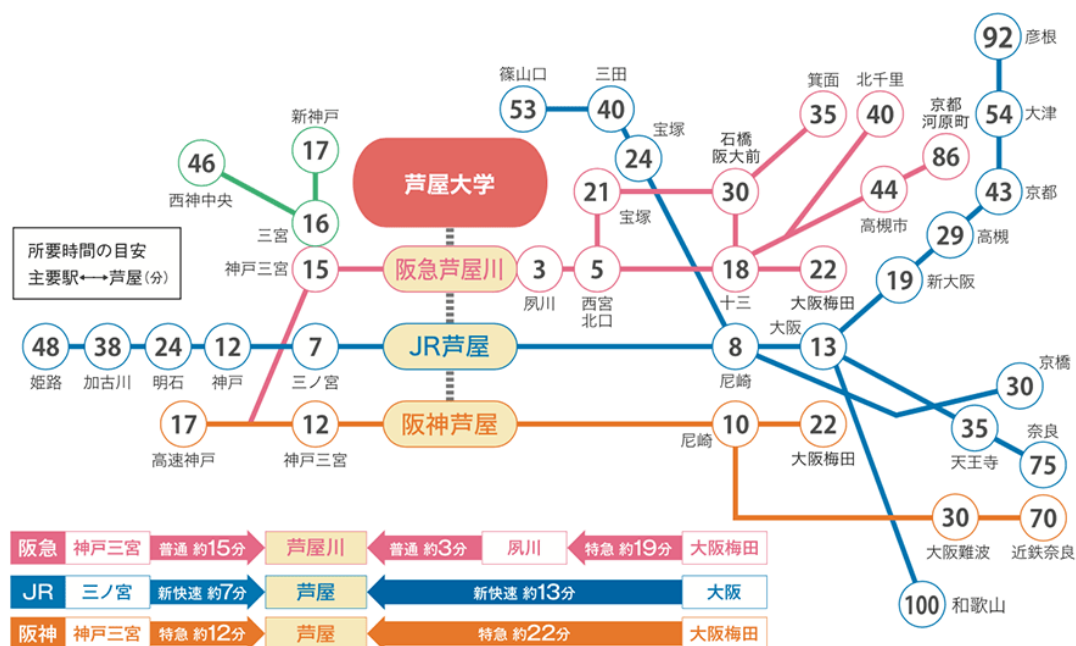
阪神芦屋駅1乗り場 阪急芦屋川、JR 芦屋、阪急夙川、苦楽園(循環)、岩園町方面⑪⑬⑮⑰⑳

阪急夙川駅2乗り場 阪急芦屋川、芦屋浜営業所前、苦楽園(循環)方面 ④⑪⑬

【タクシー】

JR 芦屋駅 12分1,100円程度 阪急芦屋川駅 15～20分1,500円程度

阪神芦屋駅 15～20分1,500円程度 阪急夙川駅 20分1,500円程度



(<https://www.ashiya-u.ac.jp/access/>)

(3) 運営体制：第31回研究大会準備委員会

準備委員長 石橋由紀子（兵庫教育大学准教授）
 副準備委員長 阪本美江（芦屋大学教授）
 事務局長 石井智也（兵庫教育大学准教授）
 準備委員 槇場政晴（芦屋大学教育研究所所長）
 準備委員 原田江梨子（芦屋大学大学院教育学研究科博士後期課程）
 大会支援委員：高橋智（「特別ニーズ教育学史」WG 委員長・東海学院大学）
 田部絢子（代表理事・日本大学）
 内藤千尋（事務局長・山梨大学）
 能田昂（理事・秋田大学）
 池田敦子（理事・東海学院大学）
 石川衣紀（長崎大学）
 後援：兵庫教育大学・芦屋大学・兵庫県教育委員会・芦屋市教育委員会・
 加東市教育委員会

(4) お問い合わせ：準備委員会事務局 石井智也（兵庫教育大学准教授）

メールアドレス：taikai@sne-japan.net

(5) 大会日程

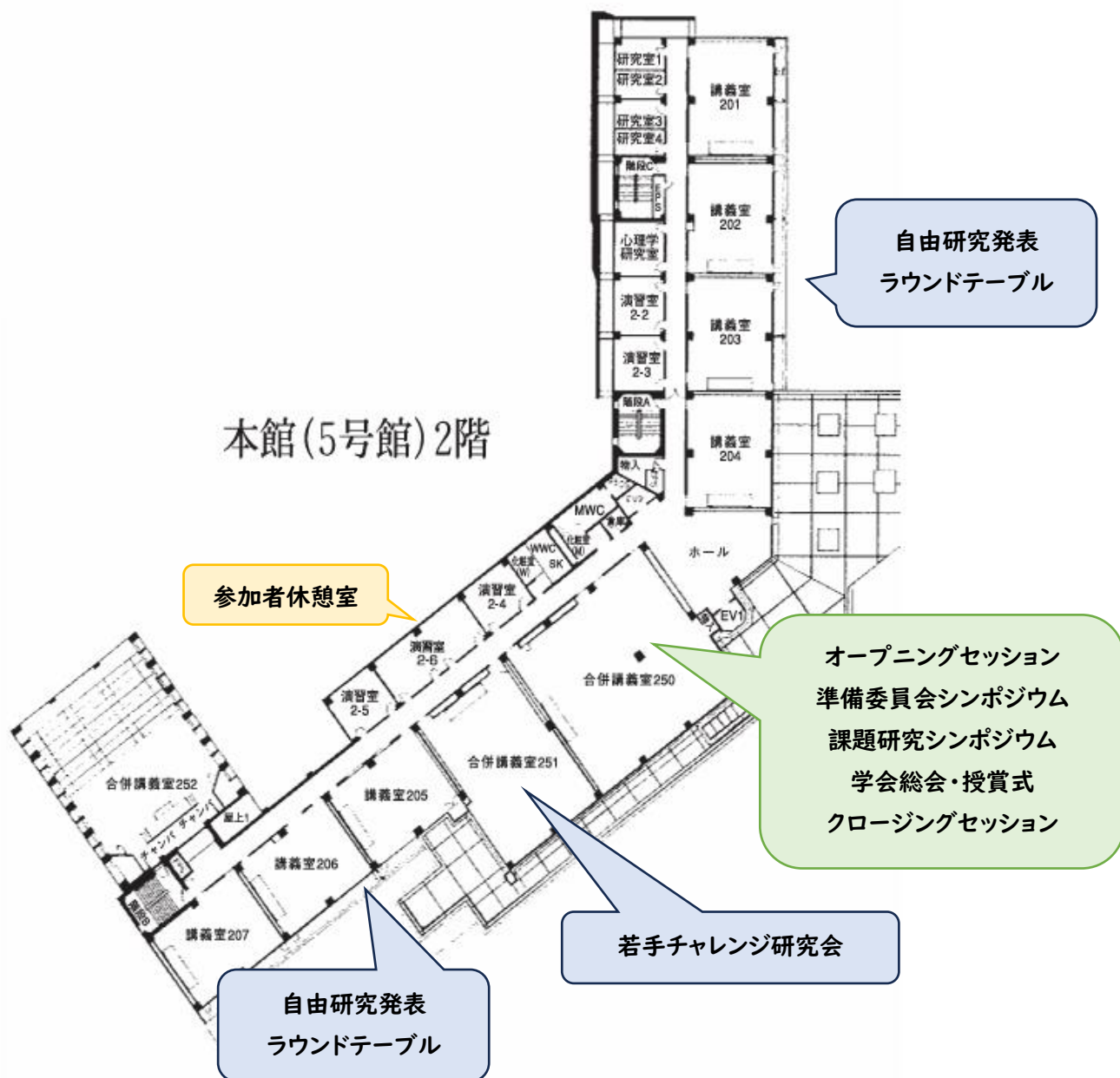
日 時		内 容	会 場
10月17日 (金)	10:30~	【日本特別ニーズ教育学会第31回研究大会】（見学ツアー、各20名定員） ＊三田谷治療教育院／賀川記念館／ふたば学舎・大橋地下道ウォールギャラリー／丸山中学校西野分校	現地

10月18日 (土)	8:40～	受付開始	芦屋大学本館 5号館2階
	9:20～	開会セッション ・準備委員会委員長開会挨拶 ・芦屋大学学長補佐挨拶 ・会場について	
	9:40～ 11:40	自由研究発表Ⅰ：自由研究発表Ⅰ～6 若手チャレンジ研究会Ⅰ A 9:40～10:40 教育講演「当事者研究・聞き取り調査と研究倫理—「被災地」での調査経験から考える「当事者」の声を聞き取ること—」(中丸和) B 10:40～11:40 論文デザイン検討会Ⅰ	
	12:40～ 14:30	昼休み ラウンドテーブル Ⅰ～3	
	14:40～ 17:10	【準備委員会企画シンポジウム】 「 貧困・外国籍・障害 」等を背景にもつ子ども・若者・成人に とっての学びの意義と特別ニーズ教育の課題 企画・コーディネート:阪本美江(芦屋大学)・石井智也(兵庫教育 大学) 司会:石橋由紀子(兵庫教育大学)・石井智也(兵庫教育大学) 話題提供者: ① 江口怜(摂南大学)夜間中学の歴史から考える社会的マイノ リティと義務教育 ② 井口幸治(神戸市中学校・識字教室「ひまわりの会」)「生き ること」と「学ぶこと」—夜間中学・識字教室の生徒から学ん だこと— ③ 宮崎仁史(NPO 法人 Seeds of Tomorrow・支援塾みんラ ボ)すべての人に基礎学力と自己肯定感の育成のための学 習支援活動 指定討論: ① 武井哲郎(立命館大学) ② 原田琢也(金城学院大学)	
	18:30～ 20:30	懇親会 かごの屋 神戸住吉店	かごの屋神戸 住吉店
10月19日 (日)	8:30	受付開始	芦屋大学本館 5号館2階
	9:00～ 11:00	自由研究発表Ⅱ：自由研究発表7～11 若手チャレンジ研究会Ⅱ：論文デザイン検討会2	
	11:45～ 13:05	学会総会・文献賞授賞式	
	13:15～ 16:05	【学史WG企画課題研究】 「 特別ニーズ教育学史の研究 」 企画・司会:高橋智(東海学院大学／「特別ニーズ教育学史 WG」委員長) ① 高橋智(東海学院大学)特別ニーズ教育に関わる教育史研 究の30年	

	② 田中謙（日本大学）「通級による指導」と特別ニーズ教育の30年 ③ 新井英靖（茨城大学）特別ニーズを有する子どもの教育課程および教授・学習過程と特別ニーズ教育の30年 ④ 栗山宣夫（育英短期大学）病気等の特別ニーズを有する子どもと特別ニーズ教育の30年	
16:15～ 16:30	クロージングセッション ・準備委員長会開会挨拶 ・優秀発表賞発表・授賞式 ・次期開催校挨拶 ・学会代表理事挨拶	

会場図





大会参加者へのご案内

1. 受付：18日受付は8:40より、19日受付は8:30より行います。18日に受付をされた方は19日にしていただく必要はございません。
2. クローク：クロークは設置しませんので、荷物は各自で管理してください。
3. 昼食：大学周辺には一切コンビニエンスストア等はありませんので事前にご用意の上、ご来場ください。5号館2階の各教室は原則飲食禁止とはなっております。1階のスペース（あるいは地下1階食堂）での飲食は可能ですので、昼食等はそちらでお願いいたします。飲料等の自販機は1階にあります。
4. 駐車場：キャンパスおよび前日プログラム会場での駐車はできませんので、必ず公共交通機関等にてお越しください。
5. その他：各会場において学会・研究大会記録用として担当者が写真・動画等の撮影を行う場合がございます。撮影した写真等は研究大会報告や会報（ホームページウェブ掲載）に使用することがございます。予めご了承ください。

自由研究発表・若手チャレンジ研究会・ラウンドテーブルの発表者・登壇者へのご案内

- * 発表者・登壇者はセッション開始20分前までに参加受付を済ませてください。
- * 開始前に発表に関する諸注意等の案内をいたします。
- * 研究発表者は開始前にPC等の動作確認を行ってください。プロジェクターとの接続端子はHDMI端子となりますので、ご注意ください。
- * 自由研究発表の発表時間は1演題ごとに発表15分、質疑10分です。
- * 若手チャレンジ研究会の発表時間は1演題ごとに発表15分、コメント・質疑10分です。
- * 会場ではプロジェクターの使用が可能です。パソコンを使用される場合は各自でご持参ください。
- * 補足資料の配布が必要な場合は、事前に発表者が必要部数（各自判断）をご用意してください。会場で印刷を行うことはできません。

準備委員会シンポジウム・課題研究関係者へのご案内

- * 関係者は開始前に打ち合わせを行います。打ち合わせ時間と会場は後日、担当者よりご案内いたします。
- * 会場ではプロジェクターの使用が可能です。パソコンを使用される場合はご持参ください。プロジェクターとの接続端子はHDMI端子となりますので、ご注意ください。
- * 当日、会場で印刷を行うことはできませんので、事前にご準備ください。

プログラム詳細

2025 年 10 月 17 日（金）

10 月 17 日（金）10:30～ 前日プログラム 見学ツアー

日本特別ニーズ教育学会第 31 回研究大会前日の 10 月 17 日（金）に「前日プログラム」を開催します。本企画は、普段なかなか行くことが難しい日本の特別ニーズ教育・特別支援教育に関わる歴史記念館・資料室、多様な背景を有する若者・成人の教育保障を実施してきた夜間中学等への見学ツアーを実施し、参加者の研究的視野を広げる学びの機会とするものです。定員は 20 名です。

とくに特別ニーズ教育・特別支援教育に関心のある若者・若手（高校生、大学学部・専攻科・大学院学生等）の皆さんの応募に期待しております。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

前日プログラム参加者へのご案内

*1 番最初のプログラム（三田谷治療教育院資料室）から参加される方は 10:20（開始 10 分前まで）には三田谷治療教育院にご集合ください。遅刻は先方へのご迷惑となり、プログラムの進行に大きな影響を与えますのでご注意ください。

*訪問先の関係上、徒歩の時間が比較的長いので、適宜、水分補給をしていただくとともに、長時間、歩くことのできる靴・服装でのご参加をお願いいたします。

*途中のプログラムから参加される方は 10 分前には訪問先に集合をお願いします。

*具体的な案内・注意事項等は、参加者にメール配信をさせていただきます。



三田谷治療教育院資料室見学ツアー 10:30～11:30

三田谷治療教育院は、1927(昭和 2)年に医師・三田谷啓(さんだや・ひらく)が創設した知的障害や病弱虚弱の子どもを対象とした治療教育機関です。ドイツの「治療教育(Heilpädagogik)」思想を導入し、障害・疾病等の困難を抱える子どもに医療・教育・心理的援助を統合的に提供することを目的としました。

戦前から戦後にかけて障害児教育の先駆的役割を担い、家庭や地域社会との連携を重視した実践は、のちの特別支援教育の基盤形成にも影響を与えました。

三田谷は大阪府立高等医学校を卒業後、富士川遊から治療教育学、呉秀三から精神病理学を学びました。1911(明治 44)年にドイツへ留学し、ゲッチンゲン大学などで治療教育学・心理学を修め、教育と医学・心理学を結合する理念を身につけました。帰国後は大阪市の医員として児童調査や教育福祉に携わり、1916(大正 7)年には大阪市社会部初代児童課長に就任しました。在任中に児童相談所、少年職業相談所、乳児院などを設立し、都市部での児童福祉・教育相談体制の整備に尽力しました。こうした行政実務を通じ、障害・疾病等の困難を有する子どもへの臨床教育的支援を実践しました。

1927(昭和 2)年に兵庫県芦屋市で三田谷治療教育院を創設し、所長として教育・医療・心理支援を統合した場を提供し、1934(昭和 9)年には『治療教育学』を刊行し、戦後も研究と教育相談を継続しました。大阪での行政実務、芦屋での実践、著作活動を通じて、日本における治療教育の導入と発展に寄与しました。

本プログラムでは、現在もその役割を担っている三田谷治療教育院を訪問し、三田谷啓の目指した思想と実践に触れながら、子どもの発達を統合的に把握しようとした彼の営みの現代的意義について学びます。

(<http://sandaya.or.jp/about-hiraku-story/>)

【アクセス】兵庫県芦屋市楠町 16 番 5 号

*JR 芦屋駅から徒歩約 20 分、阪神打出駅から約 10 分、阪急夙川駅から約 14 分



(<https://sandaya.or.jp/>より)

賀川記念館ミュージアム見学ツアー 13:30～15:00

賀川記念館のミュージアムは社会福祉法人が運営する資料館であり、賀川豊彦の生涯やイエス団の歴史を基に社会福祉教育や人権教育を行うとともに、賀川豊彦の歴史を検証し、彼の負の遺産の責任を負い、省みて現代の社会福祉実践を行っていくことをめざしています。

賀川豊彦は 1888(明治 21)年に神戸に生まれました。5 歳の時に両親と死別し、孤独な少年時代を送った賀川は、7 歳の時に赤痢に感染して何度も生死をさまようなど、生涯、病に苦しめられました。1909(明治 42)年 12 月 24 日、賀川は病に蝕まれた体をかかえて、残された生涯を貧困に喘ぐ人々の救済にささげるため、神戸のスラムに身を投じました。これらの諸活動を担いながら、宗教、哲学、経済、社会、文明批評、随筆、小説等、多岐に渡る著作を発表しています。代表作の小説「死線を越えて」はベストセラーとなりました。

その後も賀川は、社会福祉事業・児童福祉事業をはじめ、労働組合運動、農民運動、協同組合運動、無産政党樹立運動などに献身しました。関東大震災発生時には東京本所にて、罹災者救済やセツルメント事業に力を尽くしました。

本プログラムでは賀川記念館ミュージアムのスタッフからお話をうかがい、賀川豊彦の取り組みの意義、とくに「貧困・不衛生・疾病」等の多様な困難を有する子どもに応じた教育的対応の歴史的意義と課題を考えます。

(<https://core100.net/aboutus/index.html>)

【アクセス】兵庫県神戸市中央区吾妻通5丁目2-20

*阪神電車：春日野道駅から徒歩約 6 分、JR 三ノ宮駅・阪急三宮駅から徒歩約 10 分



(<https://core100.net/aboutus/index.html> より)

ふたば学舎／大橋地下道ウォールギャラリー見学ツアー 16:15～17:15

ふたば学舎（二葉公園）は昭和 4 年に開校した旧二葉小学校の校舎を保存した建物で、当時の雰囲気の色濃く残したレトロで趣ある空間が広がっています。2008（平成 20）年に校舎としての歴史に幕を下ろし、現在は様々な地域活動の場として活用されています（<http://jabs.aij.or.jp/earthquake/2022.04.pdf>）。

大橋地下道にはウォールギャラリーと名付けられた震災資料の展示コーナーもあり、神戸の壁や新長田の変遷を紹介する写真パネルなどが展示されています。神戸の壁とは阪神・淡路大震災で長田区を襲った大火で焼け残った防火壁のことです。1927 年頃に公設市場の防火壁として建てられたもので、神戸大空襲と震災の二度の大きな火災に耐え、現在は、兵庫県淡路市の北淡震災記念公園内にてその姿をとどめています（<https://www.kobe-np.co.jp/news/sougou/202206/0015352672.shtml>）。

阪神淡路大震災（1995 年 1 月）の発災から今年で 30 年目になります。被害甚大であった神戸市長田区では子どもや在日外国人、障害者等の社会的弱者の被害が多くありました。当日は「ふたば学舎」「大橋地下道ウォールギャラリー」の訪問を通して、阪神淡路大震災に伴う多様な背景を有する子ども・若者・成人の「いのち・生活・発達」等の危機の実態を理解し、今後の支援のあり方について考えていきたいと思います。

【①アクセス（ふたば学舎）】兵庫県神戸市長田区二葉町7丁目1-18

*JR 神戸線・市営地下鉄西神山手線・海岸線「新長田駅」：南へ徒歩約 13 分

【②アクセス（大橋地下道ウォールギャラリー）】兵庫県神戸市長田区腕塚町 5 丁目 5-1、新長田大橋地下道「ウォールギャラリー」内

*JR 神戸線・市営地下鉄西神山手線・海岸線「新長田駅」：南へ徒歩約 5 分



ふたば学舎

(<https://inkobe.com/futaba-gakusha/>より)



ウォールギャラリーの様子

(作成者撮影)

神戸市立丸山中学校西野分校見学ツアー 18:00~19:30

同校は1950(昭和25)年に、神戸市立丸山中学校・室内小学校分教場として長田区番町に開設されました(1964(昭和39)年に神戸市立丸山中学校西野分校に改称)。1995(平成7)年1月に阪神淡路大震災で校舎が倒壊し、1996(平成8)年に神戸市立太田中学校内に開設されます。現在、在籍生徒は約30名、17~81歳の生徒が学んでいます。国籍も日本・中国・フィリピン・ベトナム・インドネシア・シリア・ネパール・ヨルダン等と幅広いです。

同校は通常の中学校と同様に学年制を採用し、生徒は原則3年で卒業します。国語(日本語)や数学、英語など5教科の授業はきめ細かな指導ができるように、各教科は習熟度別クラスに分けて行い、学活や給食の時間、文化発表会や校外学習などの行事には学年ごとに取り組んでいます。

本プログラムでは西野分校(夜間中学)の概要をお話いただくとともに、授業見学をさせていただきます。貧困等のために学校に通えなかった人々や在日外国人等の多様な背景を有する若者・成人への学びの提供を通して、生徒に生きるものの意味や将来の希望を与えてきた公立夜間中学の見学を通して、子どもの多様な教育的ニーズに応じた教育支援の在り方・方向性を考えていくことを目的としています。

【アクセス】兵庫県神戸市須磨区大黒町5丁目1-1 神戸市立太田中学校内

*市営地下鉄「板宿」・山陽電車「板宿」から徒歩5分



(<https://www.kobe-c.ed.jp/mrn-ms>より)

2025 年 10 月 18 日（土）

オープニングセッション

10 月 18 日（土）9:20～9:30 5号館 2 階 250教室

司 会：阪本美江（準備委員会副準備委員長・芦屋大学）

準備委員長開会挨拶 石橋由紀子（兵庫教育大学大学院学校教育研究科）
芦屋大学学長補佐挨拶 青木敦英（芦屋大学学長補佐／臨床教育学部長）

若手チャレンジ研究会 I A 教育講演

10 月 18 日（土）9:40～10:40

**「当事者研究・聞き取り調査と研究倫理—「被災地」での調査経験
から考える「当事者」の声を聞き取ること—」**

講 師：中丸和（東日本大震災・原子力災害伝承館／東京大学）

司 会：栗山宣夫（育英短期大学・若手チャレンジ研究会担当理事）

趣 旨：本講演では、主に聞き取り調査の方法と課題、また聞き取り調査を通して行なう研究実施時に求められる倫理的配慮に関して、自身の被災地での調査経験をもとにしつつ検討する。

まず、調査対象者を「当事者」にしたいと考えたとき、当事者とは誰なのかを十分に考える必要があることを示す。さらに調査を行なうために、いかにしてお話ししてくださる方に出会ってきたのか、ラポールの形成はいかにして可能になるのかについて検討する。

次に、聞き取り調査を実施する際に求められる倫理的配慮事項、及び聞き取り調査においていかにお話をうかがうのか、それまでの準備も含めて紹介する。ここではラポール形成とも関係するが、自身がこれまでの聞き取り調査を行なってきた中での失敗談を踏まえながら、倫理的配慮として一般的に言われているものと、倫理的配慮はもちろん、その上でいかに聞き取り調査の機会をいただくに至るのかを、お話す。

そして、聞き取り調査を終え、その結果をいかに分析するかの方法について紹介する。特に、聞き取り調査データを分析する上でのデータの取り扱い、語りの意味の解釈と、解釈した上での聞き取り対象者との対話のあり方、論文に落とし込むときの難しさについて話す。

最後に、聞き取り調査を通してわかることがどのようなものなのか、また聞き取り調査とそれを通じた研究をもとに我々には何ができるのかについて検討する。

論文デザイン検討会 I

1. 合築された小学校と特別支援学校における継続的な交流及び共同学習の効果

—小学校児童における知的障害児への態度や認識の変容に注目して—

中谷響(神戸大学大学院人間発達環境学研究科修士課程2年)

コメンテーター:石田祥代(千葉大学)

2. 小規模校の異年齢交流から見るインクルーシブ教育の可能性

—現地への訪問調査を通して—

竹山美空(兵庫県立大学環境人間学部4年生)

コメンテーター:赤木和重(神戸大学)

自由研究発表Ⅰ 10月18日(土) 9:40~11:40

自由研究発表Ⅰ

1. 貧困・不就学・障害・疾病等に伴う各種の困難・リスクを有する子どもの特別教育史研究の動向と課題①

—江戸幕末から学制・明治前半期を中心に—

○高橋智(東海学院大学人間関係学部)

石井智也(兵庫教育大学大学院学校教育研究科)

2. 貧困・不就学・障害・疾病等に伴う各種の困難・リスクを有する子どもの特別教育史研究の動向と課題②

—明治期の小学校令公布とその改定を中心に—

○石井智也(兵庫教育大学大学院学校教育研究科)

高橋智(東海学院大学人間関係学部)

3. 戦前期大阪市における思斉学校関連の教育システム構想の検討

—「特殊の児童」を手がかりに—

磯崎加奈予(芦屋大学大学院教育学研究科博士後期課程2年・

国際日本文化研究センター特別共同利用研究員)

4. 1950-1960年代の札幌市立美香保中学校特殊学級における生活教育・バザー単元の開発と展開

○津田良介(北海道教育大学附属札幌小学校)

千賀愛(北海道教育大学札幌校)

自由研究発表2

1. 教員研修を通じた「スタンダード特別支援教育編」の作成と研究授業による活用促進について

○有吉理恵(兵庫県立姫路しらさぎ特別支援学校)
石橋由紀子(兵庫教育大学大学院学校教育研究科)

2. 特別支援学校における複数担任制の研究

—教師の協働場面のストラテジーに着目して—

花田健史(島根県特別支援学校)

3. 若手教員のニーズを起点としたグループ研修についての実践研究

—より良い授業づくりを目指して—

○清田志穂(加古川市教育委員会)
石橋由紀子(兵庫教育大学大学院学校教育研究科)

自由研究発表3

1. 多様なニーズのある子どもを支える地域のネットワーク構築の探求

—A地区の「朝ごはんプロジェクト」に焦点を当てて—

○原田琢也(金城学院大学人間科学部)

上村文子(大阪大学大学院人間科学研究科研究生)

2. 障害・疾病等に伴う子どもの食の発達困難と発達支援に関わる人材育成プログラムの開発

—「現代の子どもの食の発達困難と個別的支援に関するスキルアップ講座」の試行—

○田部絢子(日本大学文理学部教育学科)

高橋智(東海学院人間関係学部子ども発達学科)

3. 重複障害のある児童生徒への給食指導—本人の主体性を大切にした指導法について—

高田亜希子(芦屋大学大学院博士後期課程2年)

4. ベジタリアン／ビーガンに関する教員および教員養成学部学生の意識

丸山啓史(京都教育大学)

自由研究発表4

1. 知的障害のある生徒のメタ認知的活動を支援する教師の働きかけの特徴

—国語科の授業における教室談話分析—

○中村 晋(帝京大学教育学部・筑波大学人間総合科学学術院人間総合科学研究群博士後期課程)
米田宏樹(筑波大学人間系)

2. 協働的な学びにおける仲間意識向上を目指す授業実践

—特別支援学級児童とともに学ぶ学級集団の変容—

鳴海智子(兵庫教育大学大学院学校教育研究科修士課程2年)

3. 不器用な知的障害のある生徒と共につくるサーキットトレーニング

—内発的動機づけと自己理解の促進—

石井正幸(兵庫県立のじぎく特別支援学校・
神戸大学大学院人間発達環境学研究科博士後期課程2年)

4. 高等学校に在籍する聴覚障害生徒への自己理解を促す指導の実践

—集団学習を通しての自己理解の変化—

○徳永ひとみ(兵庫県立姫路聴覚特別支援学校)
石橋由紀子(兵庫教育大学大学院学校教育研究科)

自由研究発表5

1. 小児期逆境体験(ACE)を有する非行少年の実態と発達支援の課題

—少年院在院少年の面接法調査から—

○内藤千尋(山梨大学大学院総合研究部)

田部絢子(日本大学文理学部)

高橋智(東海学院大学人間関係学部)

2. 発達障害当事者会の意義と課題

—「キラキラかなおかムーン」の事例から—

奥田雅史(堺市立大浜中学校)

3. 中学生の『生場所』づくりに関する実践研究

—生きづらさを抱える不登校生徒の段階的支援を通じて—

桑川美裕己(兵庫教育大学大学院学校教育研究科修士課程2年)

4. 特別支援学校における不登校

—母親へのインタビューから支援の在り方を考える—

岡ひろみ(花園大学社会福祉学部)

自由研究発表6

1. なりたい自分から考える「夢作戦会議」

—通級指導教室における「本人の思い」を軸にした自立活動—

○平岡尚子(たつの市立揖西西小学校)

石橋由紀子(兵庫教育大学大学院学校教育研究科)

2. 重症心身障害者等の生涯学習活動における伝統産業学習の取組

—「訪問カレッジ・オープンカレッジ@愛媛大学」2024年度の実践より—

○千葉茉優(愛媛大学教育学部)

樫木暢子(愛媛大学大学院教育学研究科)

3. 大学における知的障害を有する学生の修学実態と支援の課題

—当事者の聞き取り調査から—

○池田敦子(東海学院大学人間関係学部)

高橋智(東海学院大学人間関係学部)

4. キャリア教育実習に関する保護者意識の研究

—自由記述の質的分析に焦点をあてて—

水本和也(大阪市教育委員会)

ラウンドテーブルI

「転籍」事象から考えるインクルーシブ教育

企画趣旨 周知のとおり、近年、特別支援学級や特別支援学校の在籍児が増加している。このような事実をもって、「日本は、インクルーシブ教育の進展に逆行している」との指摘がしばしばなされる。ただ、このような事実だけでは、少なくとも「排除」が進行していると断言するのは難しい。なぜなら、各家庭が小学校への就学時点から特別支援学級・学校を選択していれば、通常学級からの「排除」とみなしづらいからだ。

そこで本シンポジウムでは、特別支援学級・学校在籍児のなかでも転籍事象に注目する。転籍とは、小学校に就学した時点では、通常学級に在籍していた児童が、小学校時期の途中で、特別支援学級・学校に学籍を移動することを指す。転籍事象に注目することは、日本のインクルーシブ教育を考えるうえで、なかでも、通常学級の「包摂/排除」問題を考えるうえで重要だと考えられる。

にもかかわらず、これまで、転籍については十分注目されてこなかった。そこで、本シンポジウムでは転籍に注目することで、あらたな視点からインクルーシブ教育を考える嚆矢としたい。

企画者 赤木和重(神戸大学大学院人間発達環境学研究科)

司会者 羽山裕子(滋賀大学教育学部)

話題提供者 鶴宮慶(早稲田大学大学院教育学研究科)

加茂勇(新潟市立木戸小学校)

赤木和重(神戸大学大学院人間発達環境学研究科)

指定討論 金丸彰寿(神戸松陰大学教育学部)

ラウンドテーブル 10月18日(土) 12:40～14:30

ラウンドテーブル2

青年期の自立の検討—18歳以降の学びの場の実践をふまえて—

企画趣旨 主に知的障害のある18歳以降の学びの場(福祉型専攻科等)での実践をふまえて、豊かな人生を生きるための“自立にとって大切なこと”を、報告をもとに検討する。

企画者 船橋秀彦(福祉型専攻科シャンティつくば)

司会者 寺門宏倫(茨城県立伊奈特別支援学校)

話題提供者 河南勝(社会福祉法人いたみ杉の子発達支援連携室)

船橋秀彦(福祉型専攻科シャンティつくば)

清時忠吉(社会福祉法人いずみ野福社会)

指定討論 小畑耕作(太成学院大学非常勤)

ラウンドテーブル3

「エピソード記述」で実践が変わる、学校が変わる

—子どもの心の動きに目を向けて—

企画趣旨 「エピソード記述」を用いた子ども理解に継続して取り組む小野特別支援学校の実践経過と、それによる教員の意識の変容、実践の改善について、実践者、管理職、教師の意識変容を調査した研究者の立場から報告し、「エピソード記述」の提唱者である鯨岡氏による指定討論を行う。

企画者 垂髪あかり(鳴門教育大学大学院学校教育研究科)

岩佐直彦(小野市立小野特別支援学校)

司会者 垂髪あかり(鳴門教育大学大学院学校教育研究科)

話題提供者 岩佐直彦(小野市立小野特別支援学校)

橋本智子(小野市立小野特別支援学校)

垂髪あかり(鳴門教育大学大学院学校教育研究科)

指定討論 鯨岡峻(京都大学名誉教授)

準備委員会シンポジウム

10月18日(土) 14:40~17:10 2号館5階 250教室

「貧困・外国籍・障害」等を背景にもつ子ども・若者・成人にとっての 学びの意義と特別ニーズ教育の課題

企画・コーディネート: 阪本美江(芦屋大学)・石井智也(兵庫教育大学)

司会: 石橋由紀子(兵庫教育大学)・石井智也(兵庫教育大学)

話題提供: 江口怜(摂南大学現代社会学部)

「夜間中学の歴史から考える社会的マイノリティと義務教育」

井口幸治(神戸市中学校・識字教室「ひまわりの会」)

「『生きること』と『学ぶこと』～夜間中学・識字教室の生徒から学んだこと～」

宮崎仁史(NPO 法人 Seeds of Tomorrow・支援塾みんラボ)

「すべての人に基礎学力と自己肯定感の育成のための学習支援活動」

指定討論: 武井哲郎(立命館大学経済学部)

原田琢也(金城学院大学人間科学部)

【企画趣旨】

現代の急激な社会構造の変化、家庭の経済的格差や養育困難の拡大のなかで、子ども・若者は多様な不安・緊張・ストレス等を抱えながら生きており、子ども・若者の心身の成長や発達は危機的な状況にある。とくに「貧困・外国籍・障害」等を背景にもつ子ども・若者は学習困難、不適応、低所得や失業、家庭内の混乱、長期欠席・不就学、高校中退・非行・逸脱等の多様で複合的な困難を抱えている。

こうした多様な困難を有する子ども・若者は小中学校等で十分に学ぶことができなかったり、不適応・長期欠席・不登校を余儀なくされることも少なくない。公立夜間中学は様々な理由で日本の義務教育を修了できなかった若者・成人(学齢超過)が学び直しを行い、義務教育の卒業資格(中学校卒業資格)を取得する教育機関ではあったが、2016年の教育機会確保法制定を経て、学校に通えずに中学校を卒業した「形式卒業生」の就学も可能となり、義務教育段階で実質的に十分に学ぶことができなかった若者・成人を対象としながら夜間中学の増設が全国的にめざされている。

兵庫県内には神戸市に2校、尼崎市に1校、姫路市に1校の公立夜間中学の開設がなされている。長田区の神戸市立丸山中学校西野分校は1950(昭和25)年に開校されているが、1995(平成7)年の阪神淡路大震災で校舎倒壊に至った(翌年に須磨区の神戸市立太田中学校で実施)。こうした状況から、識字教室「ひまわりの会」をはじめとして、兵庫県立湊川高校や神戸市立楠高校に識字教室が開設された。神戸市(長田区)では、公立夜間中学のみならず、識字教室や自主夜間中学等の地域の取り組みも、「貧困・外国籍・障害」等を背景にもつ若者・成人の学びと生活を支えてきた。

さて現在、長期欠席・不登校や外国籍児童生徒の増加も相俟って、こうした子ども・若者の多様で複合的な困難・ニーズに応じることの困難さが学校教育現場においても聞かれるところである。そうしたなかでフリースクールや「学びの多様化学校」の増設がなされてきているが、これまで多様な背景を有する若者・成人

の学びの提供を通して、生徒に生きる希望や将来の希望を与えてきた公立夜間中学・自主夜間中学・識字教室の取り組みを検討することは、子ども・若者・成人の多様な困難・ニーズに応じる「特別ニーズ教育」の今後の在り方を検討するうえで重要である。

上記より本シンポジウムでは神戸市において公立夜間中学や識字教室、無料支援塾等において「生きづらさ」を有する若者・成人への教育支援・研究に携わってきた実践家や研究者をお呼びして、『貧困・外国籍・障害』等を抱える若者・成人にとっての学びの意義という視点から、「特別ニーズ教育」の課題を検討する。

【懇親会】

10月18日(土)18:30~20:30 かごの屋神戸住吉店

大会初日の18日(土)の夕刻には懇親会を開催します。会場の関係で先着50名限定です。お早めの申し込みをお願いいたします。キャンセルはできませんので、当日不参加の場合も参加費をいただきます。

会 場：かごの屋神戸住吉店（兵庫県神戸市東灘区住吉東町4-7-18）

アクセス：JR「住吉駅」南出口より南へ徒歩2分（JR芦屋駅～JR住吉駅まで快速で約4分、普通で約6分）

参加費：5,500円 事前予約／当日大会受付にてお支払をお願いします（現金のみ）。



(<https://kagonoya.food-kr.com/0652/>より)

論文デザイン検討会2

1. 一側性難聴の子どもの学校経験

—当事者の振る舞いに着目して—

堀川彩音(大阪大学人間科学部4年生)

コメンテーター:下中村武(岡山大学)

2. 自閉スペクトラム症児の嫌いな食べ物にアプローチしない教師の偏食指導観

—特別支援学校小学部教師へのインタビューを通して—

小峰範子(神戸大学人間発達環境学研究科修士課程1年)

コメンテーター:田部絢子(日本大学)

自由研究発表Ⅱ 10月19日(日) 9:00~11:00

自由研究発表7

1. 福岡市立草ヶ江小学校精神養護学級開級時期の学級経営

○松崎保弘(くらしき作陽大学子ども教育学部)
木村孝子(元学校法人木村学園茶山幼稚園長)

2. 北海道白樺養護学校の成立過程再考

—北海道精神薄弱児育成会が有した「精神薄弱児教育対策」に焦点をあてて—

佐野博己(日本大学文理学部人文科学研究所客員研究員)

3. 優生保護法問題の検証

—山口県・1980年代の優生保護法審査会議事録の分析—

船橋秀彦(福祉型専攻科シャンティつくば)

4. カウンセラーとしての教師

—1960年代におけるカウンセリングの普及—

古殿真大(広島都市学園大学子ども教育学部・
名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士後期課程3年)

自由研究発表8

1. 大学におけるビジョントレーニングの学びの意義と教育現場における導入時の課題

—読み・書字・運動機能改善に向けて—

阪本美江(芦屋大学臨床教育学部)

2. 視覚認知機能を高める指導方法の検討

—図と地の弁別能力を高めるビジョントレーニング—

槇場政晴(芦屋大学教育相談所)

3. 視覚障害教育において Expanded Core Curriculum を卒業後を見据えた生徒の支援に役立てていくために

—有益な支援方法の検討と個々の生徒のウェルビーイングの視点に立った支援の方策—

刀禰豊(岡山県立岡山東支援学校)

4. 大学研究者との連携・協同が学校レベルの教育実践の発展への寄与

—小学校現場から見た持続的連携の意義—

○加茂勇(新潟市立木戸小学校)

長谷川嘉彦(新潟市立木戸小学校)

乙川朱音(新潟市立木戸小学校)

池田吉史(東京学芸大学)

赤木和重(神戸大学)

窪島務(滋賀大学名誉教授)

自由研究発表9

1. アイルランドにおける知的障害者の大学教育保障の動向と課題

○石川衣紀(長崎大学教育学部)

田部絢子(日本大学文理学部)

石井智也(兵庫教育大学大学院学校教育研究科)

池田敦子(東海学院大学人間関係学部)

内藤千尋(山梨大学大学院総合研究部)

能田昂(秋田大学教育文化学部)

高橋智(東海学院大学人間関係学部)

2. 障害の可能性のある外国人幼児の早期把握について

—ストックホルムでの聞き取り調査から—

○石田祥代(千葉大学教育学部)

野澤純子(國學院大學人間開発学部)

3. ポルトガルにおけるインクルーシブ教育の展開VI

—現職研修の実際—

徳永亜希雄(横浜国立大学教育学部)

自由研究発表Ⅱ 10月19日(日) 9:00~11:00

自由研究発表Ⅰ〇

1. 子どもの「Long COVID (COVID-19 罹患後症状)」と発達困難・リスクに関する研究動向

○能田 昂 (秋田大学教育文化学部)
高橋 智 (東海学院大学人間関係学部)

2. 統計的データ処理技術による知覚支援システムの開発Ⅱ

寺門 宏倫 (茨城県立伊奈特別支援学校)

3. 復興過程における教員配置のパネルデータ分析

—福島県の相双地域の学校に焦点をあてて—

中丸 和 (東日本大震災・原子力災害伝承館／東京大学)

自由研究発表Ⅱ 10月19日(日) 9:00~11:00

自由研究発表ⅠⅠ

1. 小学校の自閉症・情緒障害特別支援学級における教科等の指導の困難と工夫

池田順之介(東京学芸大学学生支援センター)

2. 通常の学級における物語文「モチモチの木」の心情理解の指導

—ASDのある児童の学びに注目して—

○曾谷敦子(猪名川町立猪名川小学校)

石橋由紀子(兵庫教育大学大学院学校教育研究科)

3. 軽度知的障害や発達障害のある生徒が性の個別学習を通じて経験する知識と意識の変容

—オリジナル教材による実践的アプローチ—

○鶴岡尚子(東京医療保健大学和歌山看護学部)

伊藤修毅(日本福祉大学教育・心理学部)

4. 個別の教育支援計画を学校全体で活用するための特別支援教育コーディネーターの工夫と実践

—リーフレット作成を通して—

○長谷川朋子(高砂市立鹿島中学校)

石橋由紀子(兵庫教育大学大学院学校教育研究科)

学会総会・文献賞授賞式

10月19日(日) 11:45～13:05 5号館2階 250教室

5号館2階250教室で総会を行います。各議事のほか、文献賞授賞式を行います。会員の皆様はご参集ください。

【文献賞授賞式】

授賞者：2025年度授賞者 吉田茂孝会員

授賞対象文献：『インクルーシブ教育時代の授業における集団の指導—授業づくり、学級づくり、学校づくりの視点—』（福村出版、2023年）

課題研究

10月19日(日) 13:15～16:05 5号館2階 250教室

特別ニーズ教育学史の研究

企画・司会

高橋智（東海学院大学・「特別ニーズ教育学史ワーキンググループ」委員長）

話題提供

高橋智（東海学院大学）

特別ニーズ教育に関わる教育史研究の30年

田中謙（日本大学）

「通級による指導」と特別ニーズ教育の30年

—「制度化」「インクルーシブ教育」「通級制」の3つの視座から—

新井英靖（茨城大学）

特別ニーズを有する子どもの教育課程および教授・学習過程と特別ニーズ教育の30年

栗山宜夫（育英短期大学）

病気等の特別ニーズを有する子どもと特別ニーズ教育の30年

【企画趣旨】

課題研究「特別ニーズ教育学史の研究」は、1990年代から現在までの約30年間における特別ニーズ教育に関わる理論的・実践的研究の研究史的整理と学史的検討を行うことを目的として、2022年10月に発足した現在の第10期理事会において設定、承認された。その研究作業は「特別ニーズ教育学史ワーキンググループ」（以下、学史WG）が担当することとなった。

さて、2007 年の特別支援教育の制度化からすでに 18 年が経過したが、特別ニーズ教育と特別支援教育・インクルーシブ教育の違いが必ずしも判然とせず、むしろ特別ニーズ教育がそれらに埋没してしまったかのような印象も指摘される。こうした現状をふまえて、あらためて「サランカ声明」において特別ニーズ教育とインクルージョンが提唱されたことの歴史的意義をふまえて、特別ニーズ教育の役割・独自性や現代的課題を問い直す作業が求められている（高橋：2022）。

それゆえに、日本特別ニーズ教育学会が従来の特殊教育・障害児教育・インテグレーション・通常教育（学）・通常学級教育の批判的検討と「学習と発達への権利に関する教育科学の確立」の創造・創出に取り組んできた 30 年間に於いて、特別ニーズ教育に関わる理論的・実践的研究がいかなる変化・進展を遂げてきたのか、また当面する課題は何であるのかを研究史的整理と学史的検討を通して明らかにしていくことが、課題研究「特別ニーズ教育学史の研究」に課せられた役割である。

学史 WG では、研究史および学史として取り上げるべき特別ニーズ教育に関わる理論的・実践的研究として、当面、①特別ニーズ教育史、②通級による指導、③特別ニーズ教育の教育課程および教授・学習過程、④病気の子供と特別ニーズ教育、⑤生活教育・寄宿舎教育と特別ニーズ教育、⑥災害・パンデミック・気候変動・紛争・戦争等と子供被災・救済の特別ニーズ教育の 6 点を設定し、2025 年 6 月の中間集会と 2025 年 10 月の第 31 回研究大会における課題研究、『SNE ジャーナル』第 31 巻の特集としていくことを理事会に提案して、承認を得た。

2025 年 10 月 18 日～19 日の第 31 回研究大会（芦屋大学）における課題研究では、高橋智会員（東海学院大学）「特別ニーズ教育史研究の 30 年」、田中謙会員（日本大学）「『通級による指導』と特別ニーズ教育の 30 年—『制度化』『インクルーシブ教育』『通級制』の 3 つの視点から—」、新井英靖会員（茨城大学）「特別ニーズを有する子供の教育課程および教授・学習過程と特別ニーズ教育の 30 年」、栗山宜夫会員（育英短期大学）「病気等の特別ニーズを有する子供と特別ニーズ教育の 30 年」の 4 件の報告が行われる。

高橋報告は、1990 年代から現在までの約 30 年間に於ける特別ニーズ教育に関わる教育史研究の成果と課題について、具体的には、①特殊教育・障害児教育と通常教育の関係構造（分離・統合）、②特別ニーズ教育に関わる教育史研究の始動、③通常教育の「特別な教育的配慮・対応」として見る特別学級史研究、④特別ニーズ教育の視点からの新たな教育史像、⑤災害・パンデミック等の災禍と子供被災・救済の特別教育史研究についてレビューを行う。

田中報告は、特別ニーズ教育における「通級による指導」に関する議論を「制度化」「インクルーシブ教育」「通級制」の 3 つの視点から学史的検討を行う。

新井報告は、サランカ声明以降の 30 年間の特別ニーズを有する子供の教育課程と教授・学習論の変遷を整理し、日本のインクルーシブ教育実践の到達点と今後の実践課題を明らかにする。

栗山報告は、子供のニーズや権利に寄り添って支援を行う姿勢が基本である特別ニーズ教育の観点から、「EACH (European Association for Children)」の「病院の子供憲章」10 項目を用いて病気の子供の特別ニーズや権利保障の 30 年間の変化と課題についてレビューを行う。

閉会セッション

10月19日(日) 16:15～16:30 5号館2階 250教室

司 会：石井智也(準備委員会事務局長・兵庫教育大学大学院学校教育研究科)

準備委員長閉会挨拶	石橋由紀子(兵庫教育大学大学院学校教育研究科)
優秀発表賞発表・授賞式	松崎保弘(くらしき作陽大学子ども教育学部・研究委員長)
次期開催校挨拶	石川衣紀(長崎大学教育学部)
学会代表理事挨拶	田部絢子(日本大学文理学部)